

宗祖御遷化記録

弘安五年一〇月一六日

一、弘長元年^{辛酉}五月十二日、伊豆国に流され^{御年四十}伊東八郎左衛門尉に預けらる^{立正安国論一巻を造り最明寺入道に奉る故なり。}
同三年二月廿二日、^{しゃめん}赦免。

一、文永八年^{癸丑}九月十二日、佐土が島に流され^{御年五十}武州の^{ぜんじ}前司に預けらる^{極楽寺長老良観房の訴状に依るなり。}
訴状は別紙に在り。

同十一年^{甲戌}二月十四日、赦免。

同五月十六日、甲斐国^{かゐのくに}波木井の身延山に^{いんきよ}隠居す^{地頭南部六郎入道。}

一、弘安五年^{壬午}九月十八日、武州池上に入御^{地頭衛門大夫宗仲。}
同十月八日、本弟子六人を定め置かる^{此の状六人面々に帯すべし云々。日興一筆なり。}

定

一弟子六人の事 ^{不次第}

- 一、蓮華阿闍梨 日持
- 一、伊与公 日頂
- 一、佐土公 日向
- 一、白蓮阿闍梨 日興
- 一、大国阿闍梨 日朗
- 一、弁阿闍梨 日昭

右六人は本弟子なり、仍って^{こうご}向後の為に定むる所、^{くだん}件の如し。

弘安五年十月八日

同十三日辰の時、御滅^{御年六十一}即時に大地震動す。

同十四日戌の時、御入棺^{日朗} ^ね子の時、御葬なり。

一、御葬送次第

- | | |
|---------------------|----------------------------|
| 先火 | 二郎三郎 ^{鎌倉の住人} |
| 次大宝華 | 四郎次郎 ^{駿河国富士上野の住人} |
| 次 ^{はた} 幡 | 左 四条左衛門尉
右 衛門大夫 |
| 次香 | 富木五郎入道 |
| 次鐘 | 大田左衛門入道 |
| 次 ^{さんげ} 散華 | 南条七郎次郎 |
| 次御経 | 大学亮 |
| 次文机 | 富田四郎太郎 |
| 次仏 | 大学三郎 |
| 次御はきもの | 源内三郎 ^{御所御中間} |

次御棺	みこし 御輿なり	
		侍 従 公
	左	治 部 公
		下 野 公
		蓮華閣梨
前陣 大国阿闍梨		
		出 羽 公
	右	和 泉 公
		但 馬 公
		卿 公
		信 乃 公
	左	伊 賀 公
		摂 津 公
		白蓮阿闍梨
後陣 弁阿闍梨		
		丹 波 公
	右	大 夫 公
		筑 前 公
		帥 公
次天蓋 <small>てんがい</small>		大田三郎左衛門尉
次御大刀		兵衛志
次御腹巻		椎地四郎
次御馬		龜王童
		滝王童

一、御所持仏教の事

御遺言に云はく

仏は釈迦立像 墓所かたわの傍らに立て置くべし云云。

経は私集最要文注法華經と名づく 同こじ墓所の寺に籠め置き、六人香花当番の時之を被見すべし。自余の聖教は沙汰の限りに非ず云云。

仍よつて、御遺言に任せ記す所、件くだんの如し。

弘安五年十月十六日

執筆 日 興 花 押